

ド大学), A., Xie (ハワイ大学)

### セッション 8: モンスーンの季節変化 (その2)

座長: 住 明正 (東京大学・地球物理学教室)

- 8.1 GMS からみた東アジアと西部北太平洋での雲分布  
浅井富雄, 児玉安正 (東京大学・海洋研究所)
- 8.2 日本周辺の雲クラスターの特徴  
武田喬男, 岩崎博之, 赤枝健治 (名古屋大学・水圏科学研究所)
- 8.3 MRI GCM-I でシミュレートされた10年間の冬から夏への季節変化  
山崎孝治, 時岡達志 (気象庁・気象研究所)

### セッション 9: モンスーンの経年変化 (その1)

座長: 新田 勳 (気象庁・気象研究所)

- 9.1 熱帯大規模場の観測的研究  
Sanga, N.K., 山元龍三郎, 岩嶋樹也 (京都大学・気候変動研究施設)
- 9.2 東アジアにおける夏季モンスーンの経年変化とその熱帯アジアモンスーンとの関係  
田中 実 (気象庁)

- 9.3 東アジアのモンスーンと北部太平洋の海面水温の経年変化

吉野正敏 (筑波大学・地球科学系)

### セッション 10: モンスーンの経年変化 (その2)

座長: 吉野正敏 (筑波大学・地球科学系)

- 10.1 西部太平洋領域の雲量の経年変化  
新田 勳 (気象庁・気象研究所)
- 10.2 GMS による上・下層風ベクトルの変動  
元木敏博 (気象庁・気象衛星センター)
- 10.3 西部太平洋領域の対流圏循環の年々変動  
丸山健人, 新田 勳 (気象庁・気象研究所), 元木敏博 (気象庁・気象衛星センター)
- 10.4 東アジアでの夏冬モンスーン気圧パターンの変動  
山川修治 (筑波大学・地球科学系)
- 10.5 中国東部の夏季モンスーン降雨の ENSO に伴う変動  
Fu, Congbin (中国科学院・大気物理研究所)
- 10.6 スリランカの降水の季節変動と南方振動およびエル・ニーニョとの関係  
Suppiah, Ramasamy (筑波大学・地球科学系)

## 会員の広場

### 筑波の研究者と国家機密法

丸山 健人\*

「国家秘密に係わるスパイ行為の防止に関する法律案」(通称国家機密法)は昨年6月に国会に提出され、継続審議となったが、昨年末の国会では審議されないまま廃案になった。もっとも、与党は再提出を公言しているから、予断は許さない。

さて、筑波研究学園都市の国立試験研究機関の研究者たちも、この法案が国会に提出されたことを憂慮していた。ハイテク研究など、軍事技術との区別は困難であり、研究活動そのものが国家機密の対象とされ、研究交流・研究成果の公開ができなくなる。科学技術の平和利

用、国際交流などに重大な悪影響をおよぼす。そこで、有志で反対声明文をつくり、賛同署名をよびかけることにした。声明文ができたのが12月16日、最終日までに国会に持っていくため、わずか3日間しかなかったが、19機関912名の賛同署名が寄せられた。筑波の国立試験研究機関の研究者数は約5,000人だから2割近い数にあたる。賛同署名にはわが気象研究所の64名も含まれている。気象資料が軍事機密にされ、いっさいが戦争に動員されていった気象史の教訓をあらためて思い起こさせた。

12月号編集後記に国家機密法について「なぜか声が上がってきません」とのことでしたので、筑波の気象人は健在であることを誌上にてお知らせしたい。

\* Taketo Maruyama, 気象研究所。